

医薬品業界における流通系列化の生成過程

研究分野: 商学、流通論、マーケティング論

キーワード: 流通系列化、一般用医薬品、特約店制度

貢献できるSDGsの区分:



経営学部 経営学科 教授 神保 充弘

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/jinbo/>

研究概要

日本の製薬企業による流通系列化については、いくつかの企業の事例が先行研究によって明らかにされている。たとえば、大正製薬は1928年、特約株主制度を採用し、卸売業者を介さず小売業者に直接販売する仕組みを導入して販売チャネルの整備に本格的に乗り出していた。また、武田薬品工業は新薬の製造・販売に伴い、大正期には卸売業者の整備に着手していたが、1939年には同社専属の卸売機関として武田薬品大阪配給所を設立して、資本的にも人的にも関与するなど、きわめて高度な系列化を実施していた。

現在、これらの先行研究をふまえながら、従来、先行研究によってはほとんど光が当てられなかったいまひとつの重要な存在として星製薬の事例を取り上げ、その販売組織の構築過程に焦点を当てつつ、その実態を浮き彫りにする研究を行っている。

産学連携の可能性(アピールポイント)

- ① 地方企業によるマーケティングに関する実態調査、共同研究
- ② 商業を中心としたまちづくりに関する実態調査、共同研究

外部との連携実績等

- ① 佐世保市「中小企業新製品開発促進審査会」委員(2007年)
- ② 佐世保商工会議所「させぼのよか店再発見プロジェクト!」審査委員会委員長(2008～11年)
- ③ 長崎県分野調整事業協議会委員(2012年～)